



2023年3月期 決算説明資料

2023年5月25日

代表取締役社長

實吉 政知

	ページ
1. テクノメディカの歴史・主要製品 ……	2- 5
2. 2023年3月期 決算 ……	6-24
3. 2024年3月期業績見通し ……	25-28
4. 2023中期経営計画 ……	29-46



1. テクノメディカの歴史・主要製品

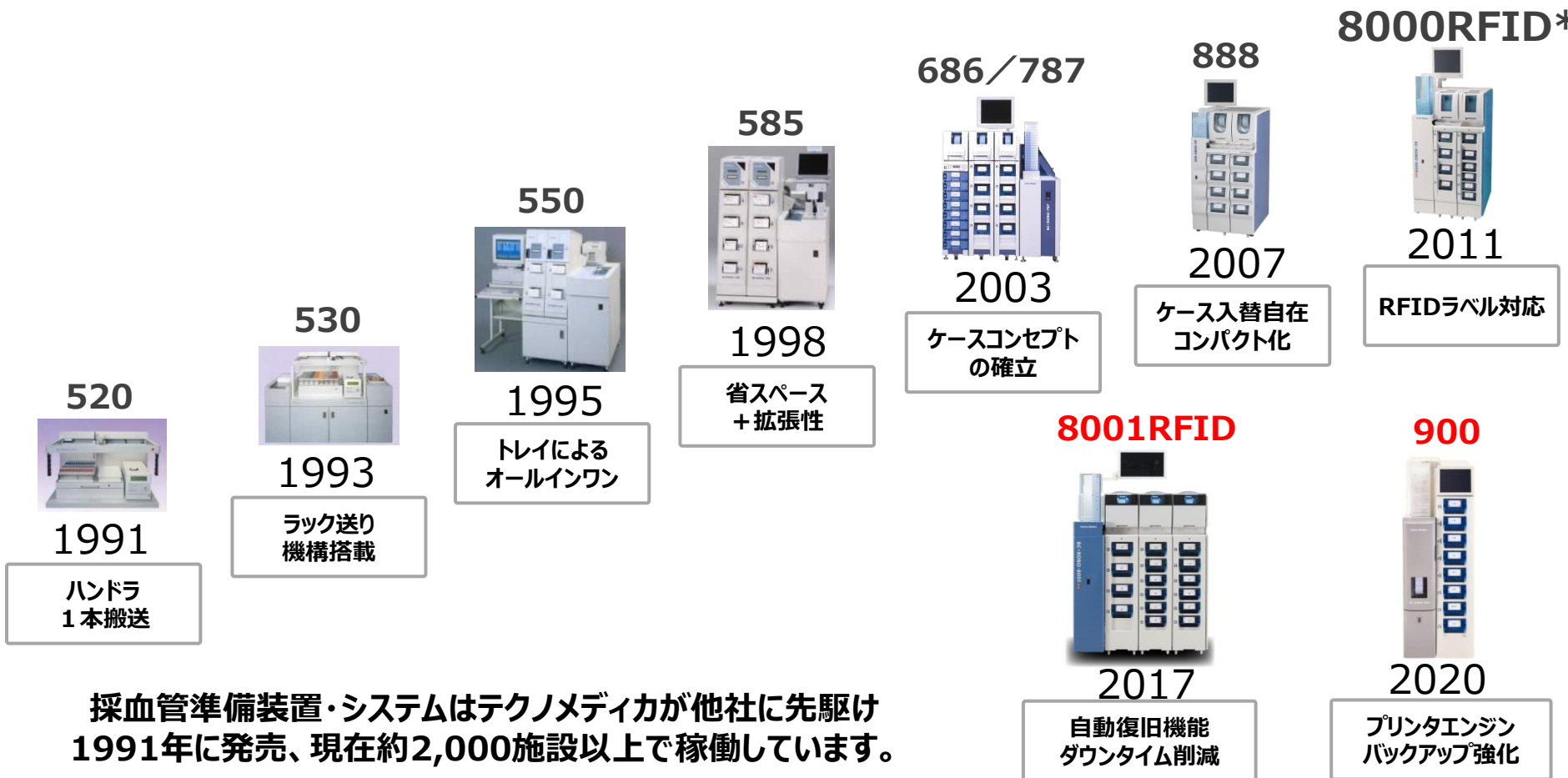
1987年	9月	神奈川県川崎市高津区にて創立
1988年	9月	全自動血液ガス分析装置の販売を開始
1991年	4月	自動採血管準備装置の販売を開始
1997年	3月	本社社屋の竣工（横浜市都筑区仲町台）
1998年	6月	本社第2研究所竣工 ⇒研究開発部門の充実
2004年	12月	ジャスダック証券取引所へ店頭登録
2005年	9月	本社第3研究所竣工 ⇒研究開発部門+物流の充実
2008年	3月	東京証券取引所市場第一部に指定
2009年	7月	本社第4ビル竣工 ⇒生産業務施設の充実
2012年	9月	ヘルスケアセンターを開設 ⇒ヘルスケア部門の研究開発強化
2019年	7月	テクノメディカ台湾支店の開所
2020年	7月	中型自動採血管準備装置・システムの販売開始
2021年	9月	新開発 採血受付システム・採血採尿受付システムの販売開始
2022年	4月	東証「プライム市場」へ移行
	8月	血液ガス分析装置新製品GASTAT-proの販売開始
	10月	臨床検査機器・試薬・システム展示会

● 品目別に見た主要製品

	製品名			
採血管準備装置 ・システム	 <p>採血管準備装置 BC・ROBO-8001RFID</p>	 <p>卓上型 採血管準備装置 BC・ROBO7</p>	 <p>RFID検体情報 統括管理システム TRIPS</p> <p>アンテナ ボックス 採血管 スタンド</p>	 <p>全自動尿分取装置 UA・ROBO-2000RFID</p>
検体検査装置	 <p>血液ガス分析装置 GASTAT-700モデル</p>	 <p>ハンディ型血液ガス分析器 GASTAT-pro</p>	 <p>電解質測定器 STAX-5 Inspire</p>	<p><その他> 赤血球沈降速度測定装置 尿中酸化ストレスマーカー測定システム 等</p>
消耗品等	 <p>センサーカード</p>	 <p>ラベル</p>	 <p>電極</p>	 <p>ハレンカップ</p> <p><その他> 採血管準備装置および検体検査装置の保守 等</p>

CONFIDENTIAL

● 採血管準備装置・システムの歴史



*RFID(Radio Frequency IDentification) … ICタグの個別情報を無線通信によって読み書きするシステム



2. 2023年3月期 決算

- 決算サマリー：売上高は対前期減だが、過去3番目を達成
営業利益率は17%台を維持

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,699	100.0%	9,367	100.0%	△3.4%
営業利益	1,861	19.2%	1,649	17.6%	△11.4%
経常利益	1,851	19.1%	1,668	17.8%	△9.9%
当期純利益	1,281	13.2%	1,150	12.2%	△10.2%
1株当たり純利益(円)	150.9	—	136.4	—	△9.6%
1株当たり純資産(円)	1,859	—	1,934	—	+4.0%

● **品目別売上高（全体）：採血管準備装置・システムは国内大型案件が減少、消耗品等は国内採血管供給事業終了の影響**

（単位：百万円）

	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	
					前期比
採血管準備装置 システム	4,233	3,303	3,791	3,573	△5.8%
構成比	43.2%	36.5%	39.1%	38.1%	—
検体検査装置	570	740	561	591	+5.3%
構成比	5.8%	8.2%	5.8%	6.3%	—
消耗品等	5,006	4,996	5,345	5,202	△2.7%
構成比	51.0%	55.3%	55.1%	55.5%	—
合計	9,810	9,040	9,699	9,367	△3.4%

● 前期比決算のポイント・トピックス

売上高 増減要因

採血管準備装置・システム

⇒国内は大型案件が減少、海外は大規模施設向けの機種種の販売が伸長
＜国内6%減、海外3%増＞

検体検査装置

⇒海外はハンディ型の血液ガス分析装置の販売が増加
＜国内1%減、海外16%増＞

消耗品等

⇒国内は採血管供給事業の終了で減少、海外は稼働装置数の増加に伴い増加
＜国内3%減、海外3%増＞

販管費 増減要因

販売費及び一般管理費は横ばい
(諸経費削減努力の継続による)

トピックス

新製品のGASTAT-proの販売拡大

● 主力製品 BC・ROBO-8001 RFID について

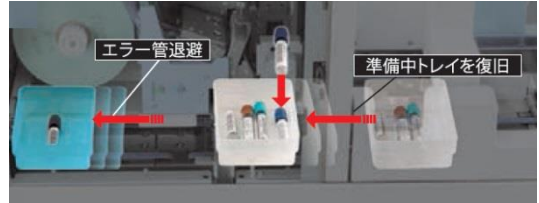
自動採血管準備装置
**BC・ROBO
8001**
RFID

4
つ
の
新
機
能



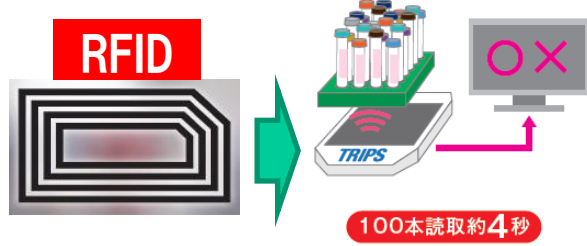
IoTサポート

⇒ 自動起動機能 等



自動復旧

⇒ 発行動作の停止を回避



RFID連携強化

⇒ 検体トレーサビリティの強化



自動学習

⇒ メンテナンス時期のアラート 等



● 採血業務支援システム Assist More



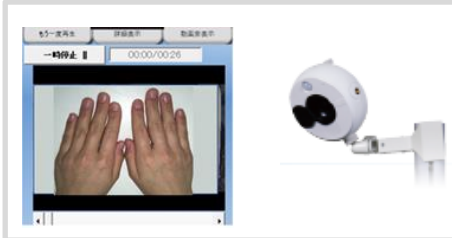
採血カルテ登録



採血後画面タッチで患者情報を入力。採血カルテはピクトグラムを多用し、登録も簡単。患者の詳しい採血情報の共有も可能

採血業務をトータル的にサポートするオプション

▶ 採血レコーダーシステム (オプション)



採血中の動画と音声を同時記録

- 採血技術向上
- 採血トラブル時の検証データとして活用
- 採血部位・採血手順記録の精度向上

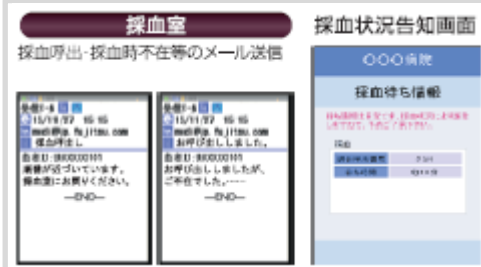
👤 アドミニストレータ (オプション)



採血カルテデータを分析・活用

- 患者様固有の採血傾向を患者サービス向上へ活用
- 日々の採血パフォーマンスを集計
- 採血室の管理業務を細かくサポート

✉ Webメール採血呼出通知 (オプション)



患者様の携帯電話・スマホへ直接採血呼出しメールを送信

- 待合に不在の患者様を呼出可能
- Web画面で採血室状況の確認が可能

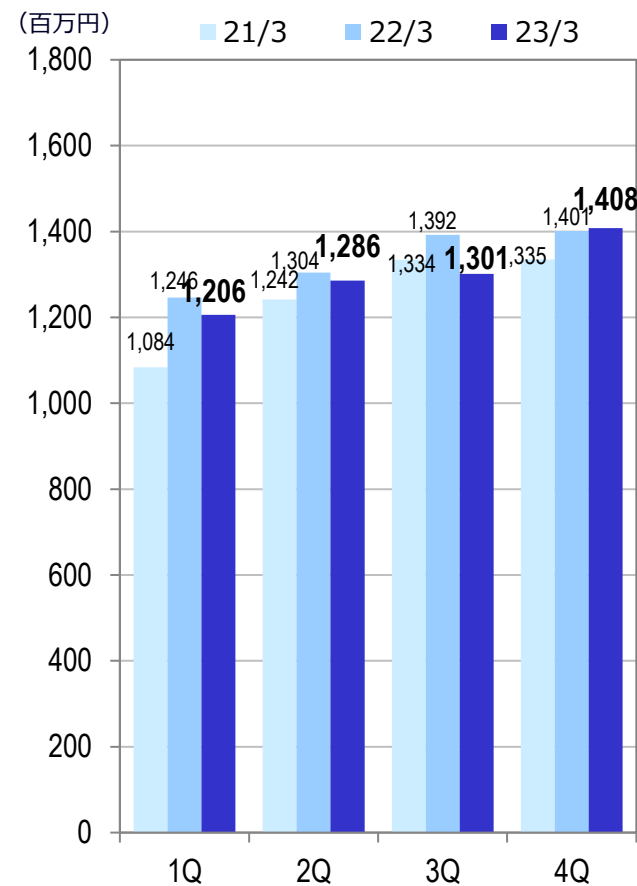
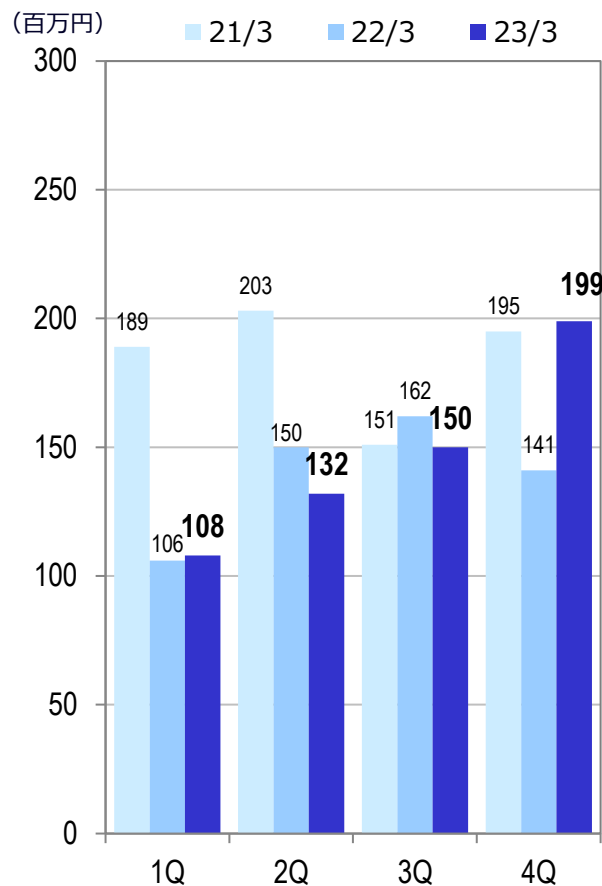
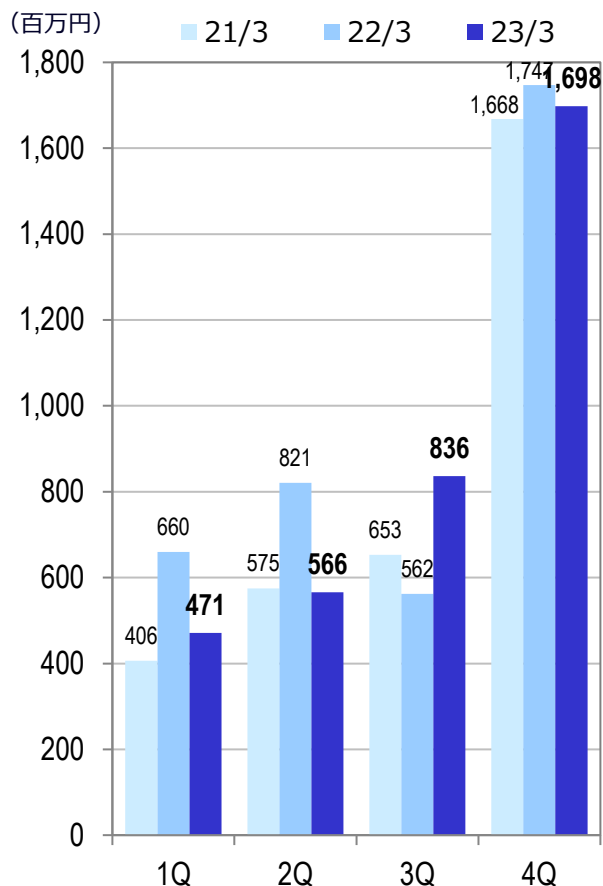
● 品目別売上高（四半期別）

消耗品等は、採血管供給事業終了を他でカバー

採血管準備装置・システム

検体検査装置

消耗品等

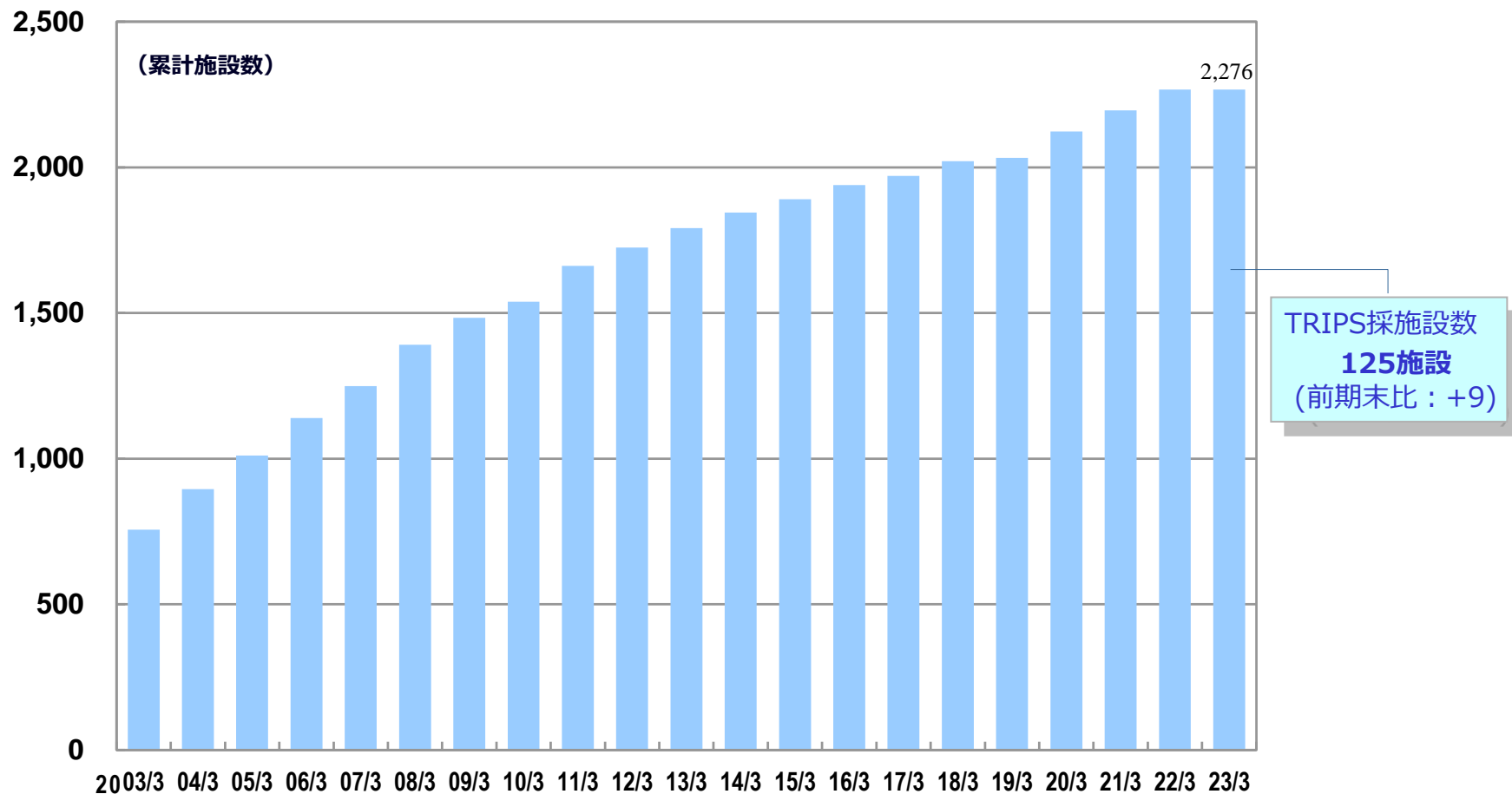


● 採血管準備装置・システム – BC・ROBO納入施設数

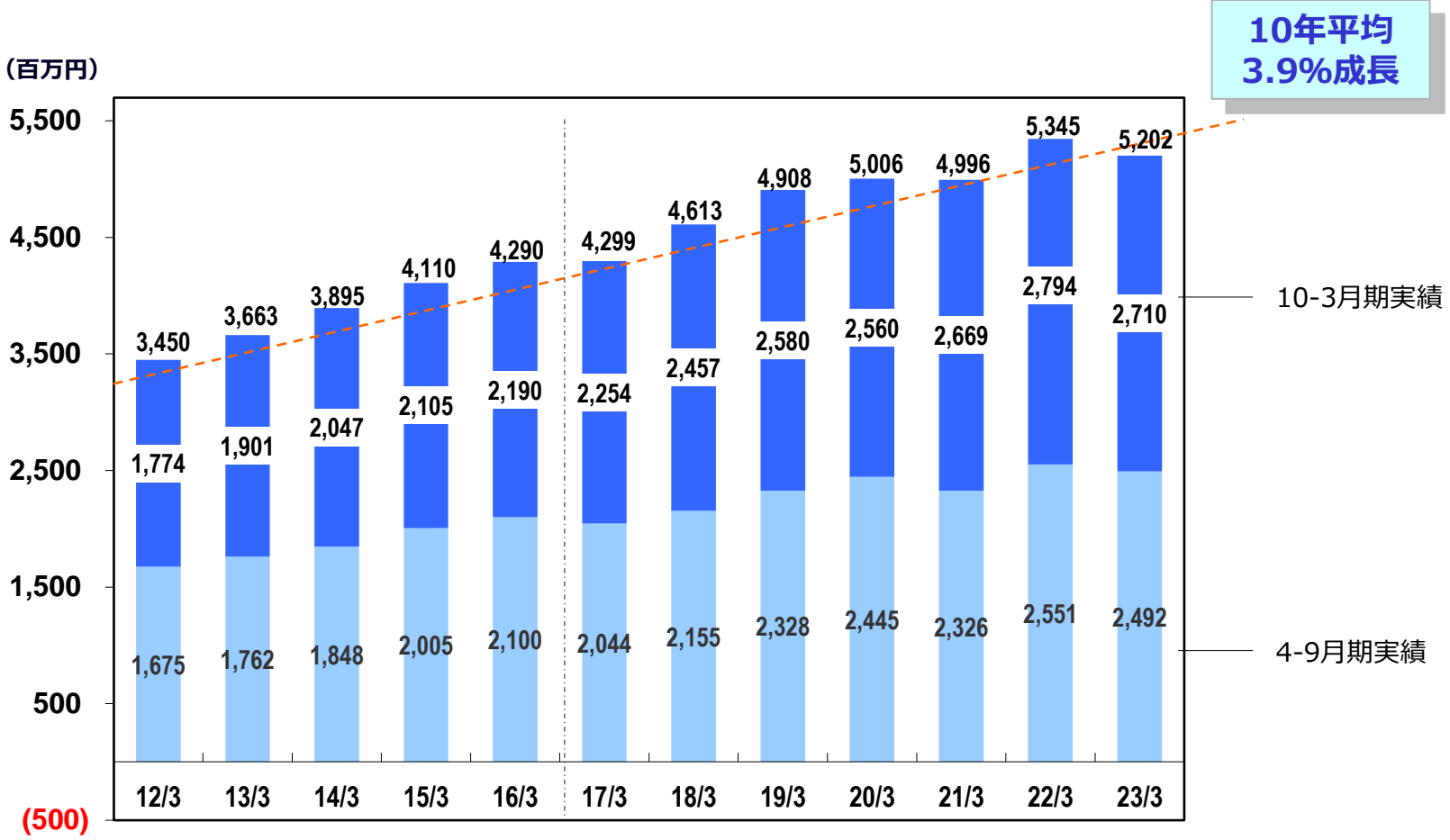
	2020/3期	2021/3期	2022/3期	2023/3期	
					前期差
納入施設数	429	364	438	387	△51
国内	271	224	314	270	△44
うち新規	90	73	71	95	+24
うち更新	181	151	243	175	△68
輸出	158	140	124	117	△7

- ・国内：新規導入は95施設、引続きBC・ROBO7がけん引
更新需要は大型機（BC・ROBO-8001RFIDやBC・ROBO-900）を中心に取込み
- ・輸出：小型機を中心に海外需要を掘り起こし

● 採血管準備装置・システム－国内納入施設数の推移



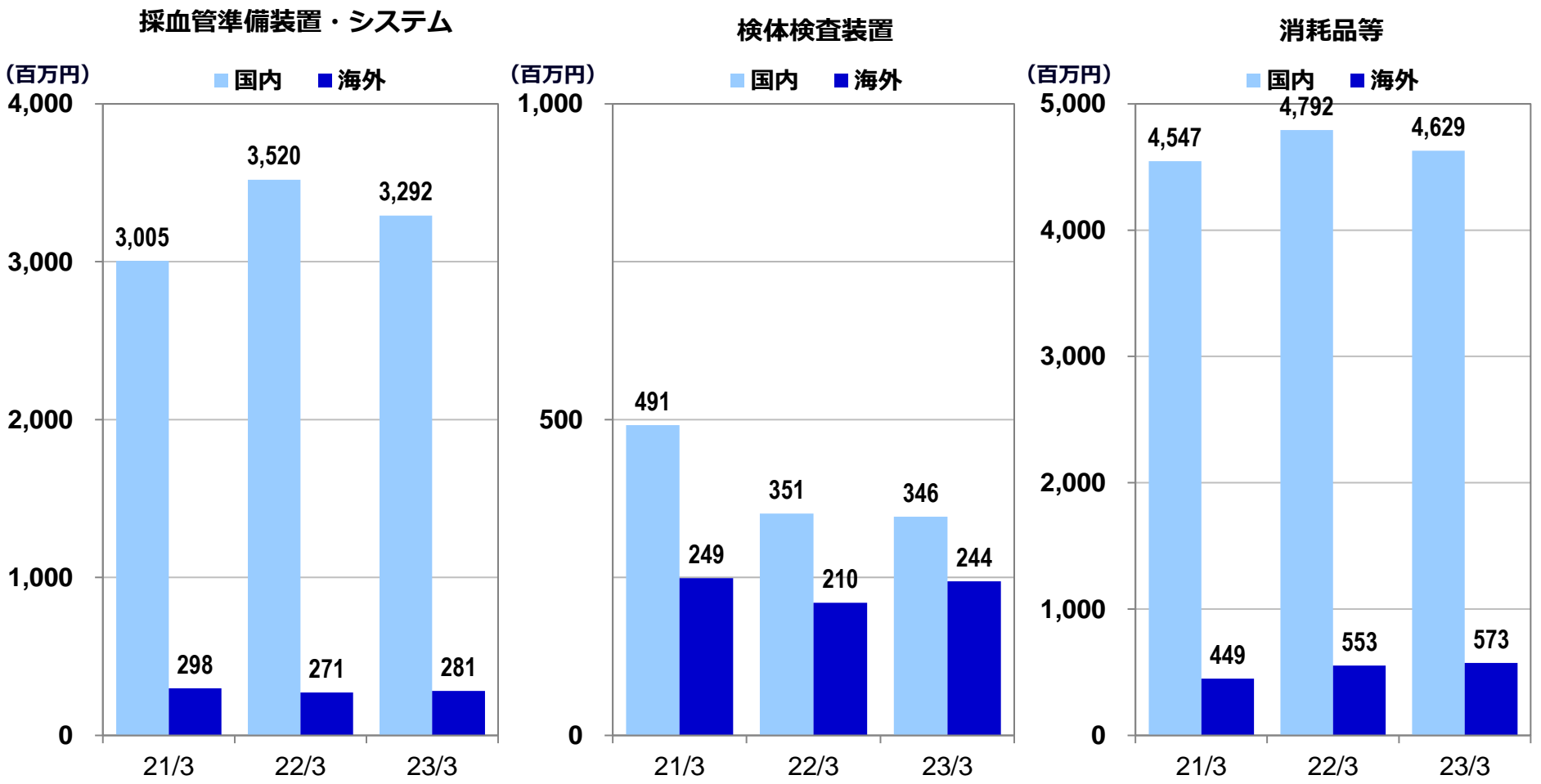
● 消耗品等（含む保守料）の売上高推移



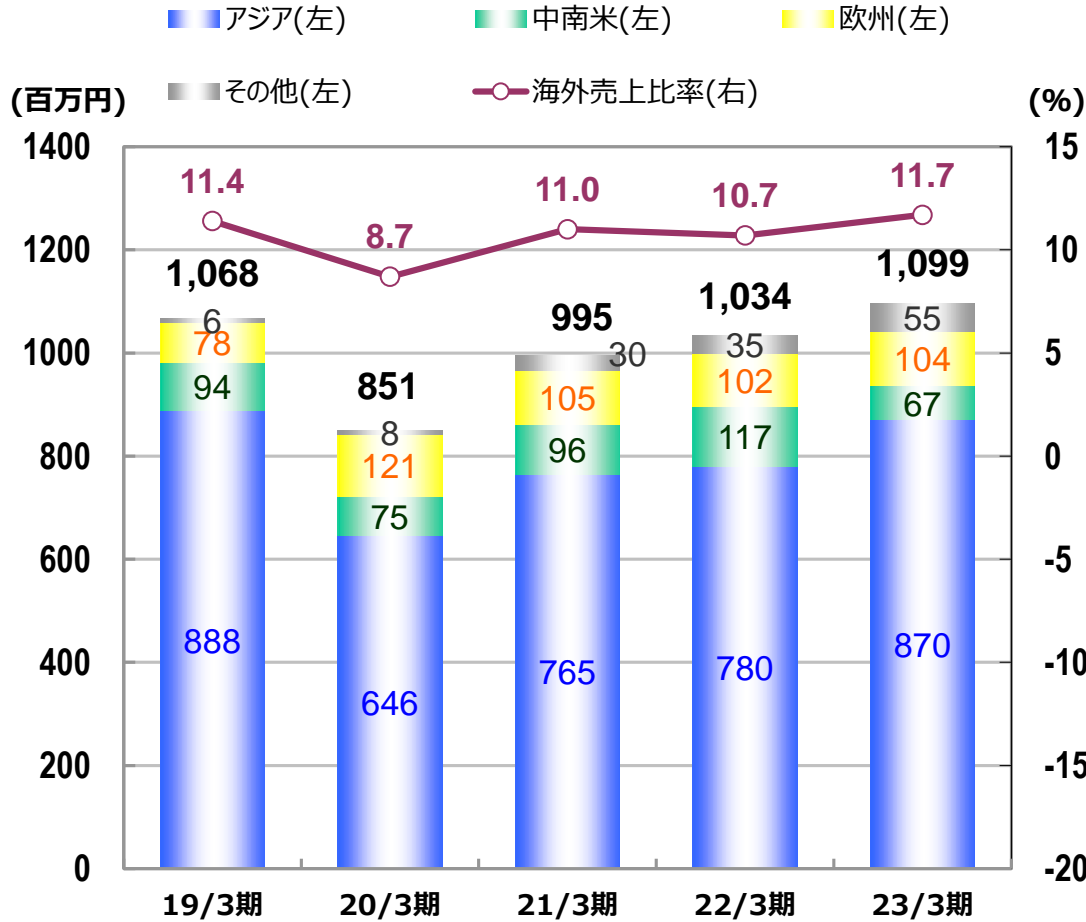
*

* 17/3期より保守料の計上方法を変更

● 品目別売上高（国内・海外別） 国内採血管準備装置・システムおよび消耗品は減少、海外は回復基調



● 海外売上高…世界44ヶ国へ販売



[2023/3期]

採血管準備装置・システム
 …大型施設向けの機種の販売が伸長

検体検査装置
 …新型コロナウイルス対応によりハンディ型の血液ガス分析装置の販売が増加

消耗品等
 …稼働装置の増加に伴い増加

● 要約損益計算書

(単位：百万円)

	2022/3期		2023/3期		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,699	100.0%	9,367	100.0%	△3.4%
売上原価	4,881	50.3%	4,737	50.5%	△3.0%
売上総利益	4,817	49.7%	4,630	49.4%	△3.9%
販売管理費	2,955	30.4%	2,980	31.8%	+0.9%
営業利益	1,861	19.1%	1,649	17.6%	△11.4%
営業外損益	△10	—	+19	—	—
経常利益	1,851	19.0%	1,668	17.8%	△9.9%
特別損益	0	—	0	—	—
法人税、調整額等	569	—	515	—	—
当期純利益	1,281	13.2%	1,150	12.2%	△10.2%

前期比減収に伴い営業利益減、販売管理費は経費削減努力により横ばい

● 要約貸借対照表【資産の部】

(単位：百万円)

	2022/3期末		2023/3期末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動資産	16,472	89.0%	17,307	89.0%	+834
現預金	11,523		11,750		+226
売上債権	3,652		3,574		△77
棚卸資産	1,229		1,865		+636
その他流動資産	67		117		+49
固定資産	2,035	10.9%	2,136	10.9%	+100
有形固定資産	1,492		1,527		+35
無形固定資産	33		22		△10
投資等	509		585		+75
資産合計	18,508	100.0%	19,443	100.0%	+934

● 要約貸借対照表【負債・純資産の部】

(単位：百万円)

	2022/3期末		2023/3期末		
	金額	百分比	金額	百分比	増減額
流動負債	2,630	14.2%	2,810	14.4%	+180
買入債務	1,282		1,499		+217
短期有利子負債	—		—		—
その他流動負債	1,347		1,310		△36
固定負債	227	1.2%	245	1.2%	+17
長期借入金	—		—		—
その他固定負債	227		245		+17
負債合計	2,858	15.4%	3,056	15.7%	+198
純資産合計	15,650	84.5%	16,386	84.2%	+736
負債・純資産合計	18,508	100.0%	19,443	100.0%	+934

● 要約キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

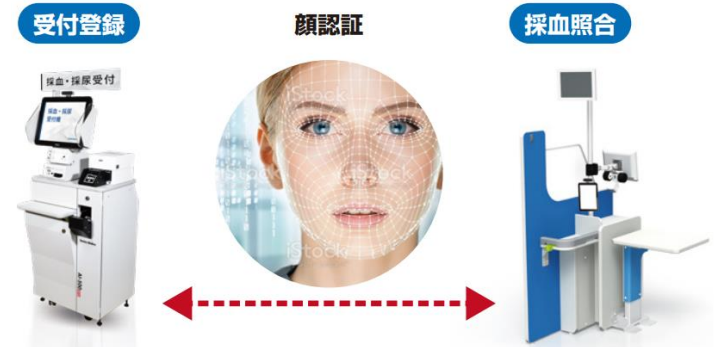
	2022/3期	2023/3期	
	金額	金額	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,062	887	△1,175
投資活動によるキャッシュ・フロー	2,489	△155	△2,644
財務活動によるキャッシュ・フロー	△598	△505	+93
現金・現金同等物の増加額	3,953	226	△3,726
現金・現金同等物の期首残高	7,570	11,523	+3,953
現金・現金同等物の期末残高	11,523	11,750	+226
研究開発費	405	369	△36
設備投資実施額	65	133	+68
減価償却実施額	120	108	△12

フリーキャッシュフローはプラスで安定的に推移、今後も研究開発投資、生産設備投資、および人的資本投資に活用

新開発品出展 臨床検査機器・試薬・システム展示会 (2022年10月7日~9日)

① 生体認証 受付システム

- 最新顔認証
- 採血対応の照合精度向上



② クラウド型 採血待合システム

- 混雑状況・案内情報発信
- 患者サービス向上を支援



③ IC カード運用システム

- ICカード診察券の実用化
- マイナンバーカード運用の先駆け



血液ガス分析器 New GASTAT-Pro

- コンパクト、高機能 新型装置
- 新開発センサカード
- 操作性をアップグレード



本社 太陽光発電システム導入



システム概要

- ・2023年2月26日発電スタート
- ・設置容量：13.68kW
- ・本社屋上に設置

CO₂削減予測

- **年間発電量：13,129 kWh**
※本社の年間使用量の13%に相当
- **年間CO₂削減量：5.8t-CO₂**
※環境省公表 電気事業者別排出係数 代替値(0.000441)を使用



3. 2024年3月期業績見通し

● 2024年3月期 業績見通し 売上98億円、営業利益13億円

(単位：百万円)

	2023/3期		2024/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,367	100.0%	9,800	100.0%	+4.6%
営業利益	1,649	17.6%	1,300	13.2%	△21.1%
経常利益	1,668	17.8%	1,300	13.2%	△22.0%
当期純利益	1,150	12.2%	900	9.1%	△21.7%
1株当たり純利益(円)	136.3	—	106.6	—	—
1株当たり配当金(円)	60.0	—	55.0	—	—
研究開発費	369	3.9%	500	5.1%	+35.5%

売上高は98億円を目指す。利益はコロナ後の事業活動加速化による販売費増・新規開発費増により、前期比減益の見込み。

● 2024年3月期 品目別売上高見通し

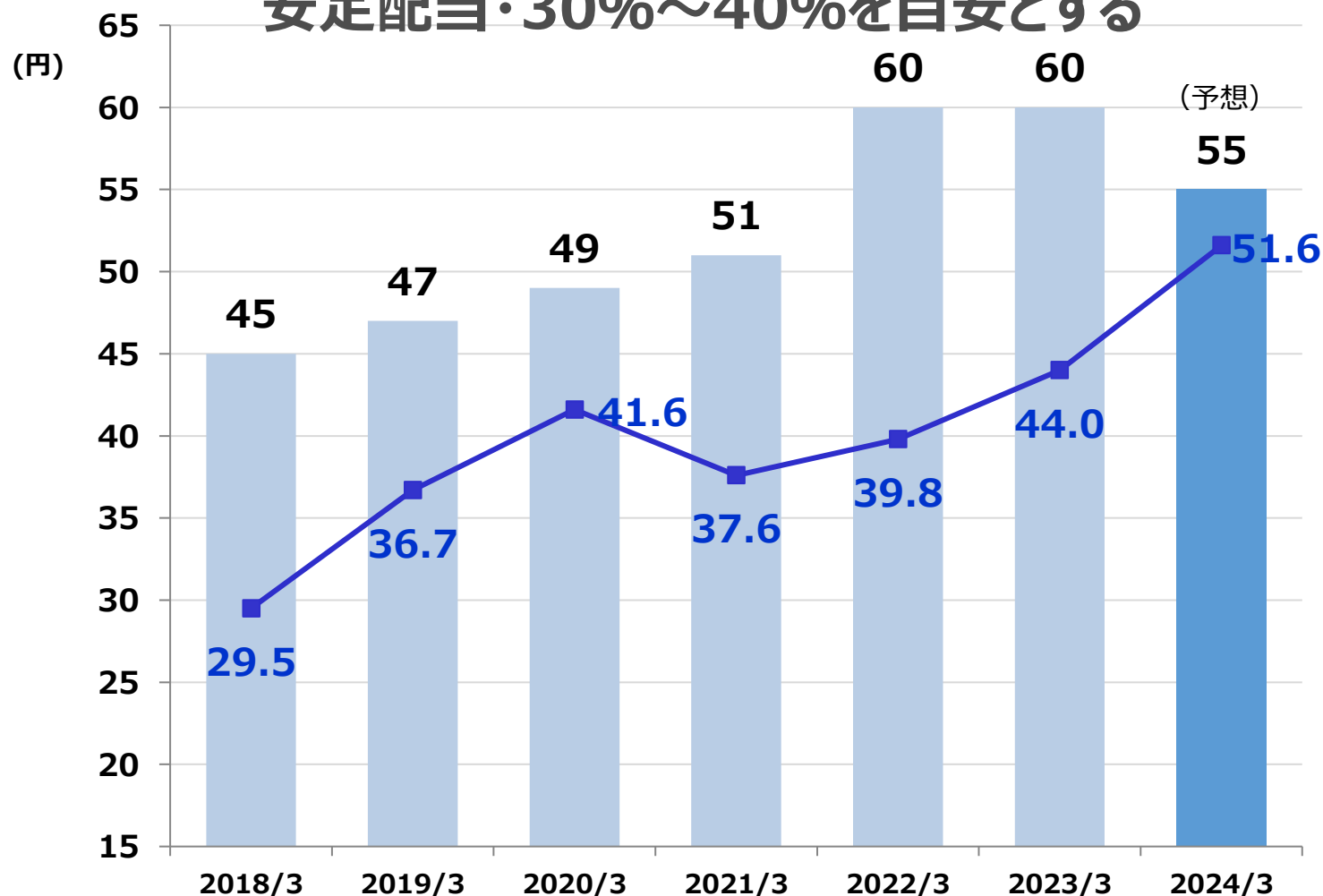
(単位：百万円)

	2023/3期		2024/3期 (予)		
	金額	百分比	金額	百分比	前期比
売上高	9,367	100.0%	9,800	100.0%	+4.6%
採血管準備装置・システム	3,573	38.1%	3,713	37.8%	+3.9%
検体検査装置	591	6.3%	616	6.2%	+4.2%
消耗品等	5,202	55.5%	5,471	55.8%	+5.1%

採血管準備装置・システムはシステムソリューションを強化、増販の見通し

【配当性向の目標】

安定配当・30%～40%を目安とする





4. 2023中期経営計画

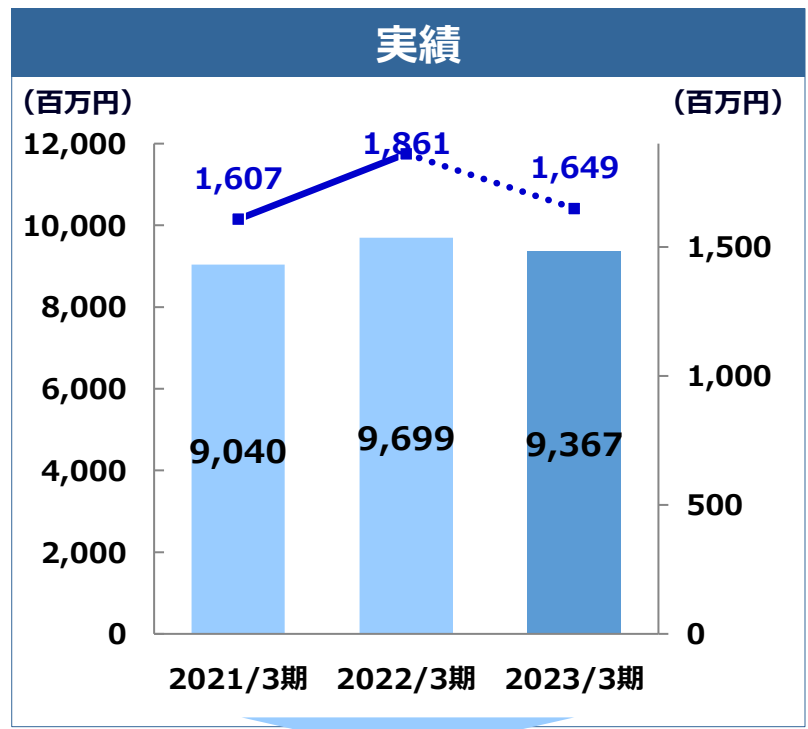
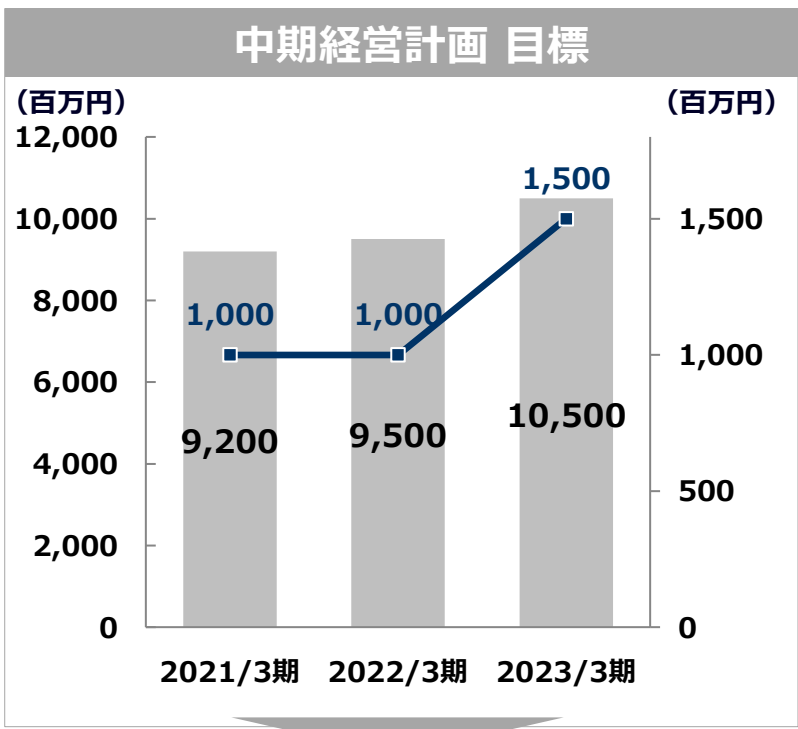
2023年中中期経営計画のもと、 持続的成長を目指す

<2023中計基本方針目的>

- ① 「2030長期ビジョン」を見据え、更なる発展への転換を図る。
- ② 持続的成長へ向けたビジネスモデルの変革を図る。
- ③ ESG（環境・社会・企業統治）視点での事業を通じた社会的課題解決への貢献を行う。
- ④ 「2030長期ビジョン」達成のための人材価値の最大化を図る。

2020・3か年中期経営計画 総括

■ / ■ 売上高 (左) -■- / -■- 営業利益 (右)



【3か年累計】
 売上高：292億円 / 営業利益：35億円

【3か年実績累計】
 売上高：281億円 / 営業利益：51億円

※ 3年間累計では、売上高96%、営業利益146%の達成率

2020中計目標の実績比較

〈2020中計との比較〉

単位 億円

2020中計目標			2020中計実績			2023中計/予算		
20中計目標	売上高	営業利益	実績	売上高	営業利益	年度	売上高	営業利益
2020年度	92	10	2020実績	90	16	2023年度	98	13
2021年度	95	10	2021実績	96	18	2024年度	100	14
2022年度	105	15	2022実績	93	16	2025年度	110	18
合計	292	35	合計	281	51	合計	308	45

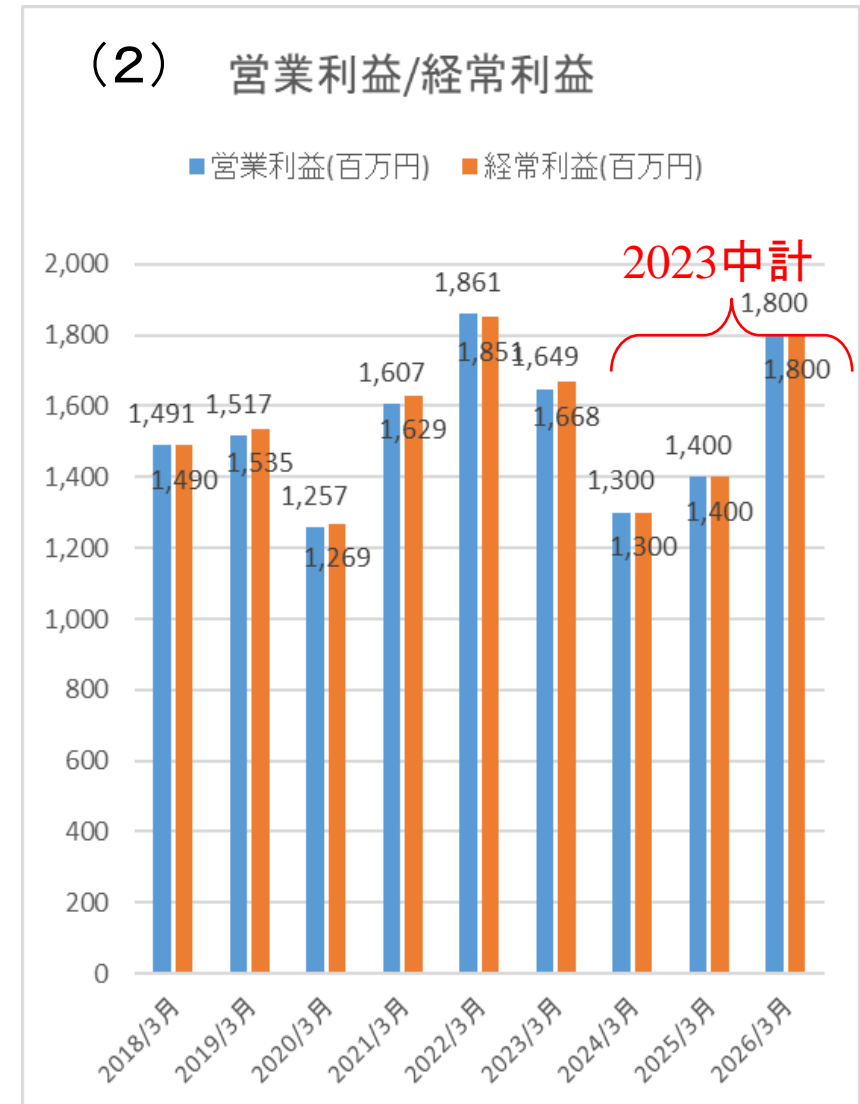
2020中計達成率（3ヶ年）

売上高：96% 営業利益：146%

財務戦略

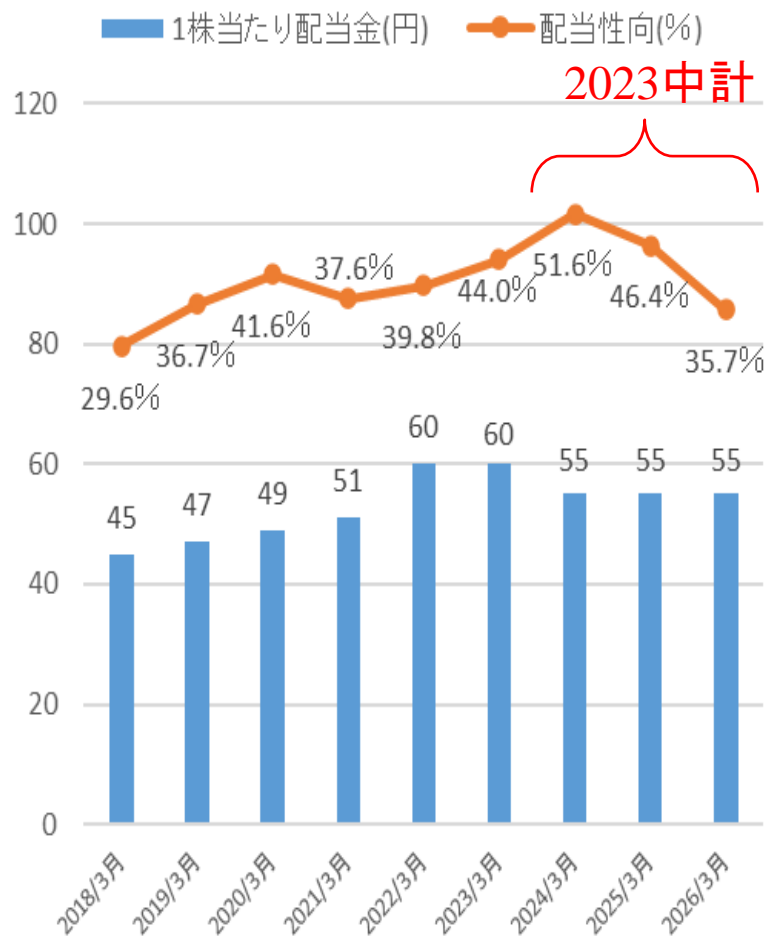
テクノメディカ・重要な成果指標水準

- (1) 売上高、売上高の伸び率
- (2) 利益額、利益の伸び率
- (3) 配当性向
- (4) R O E (株主資本利益率)

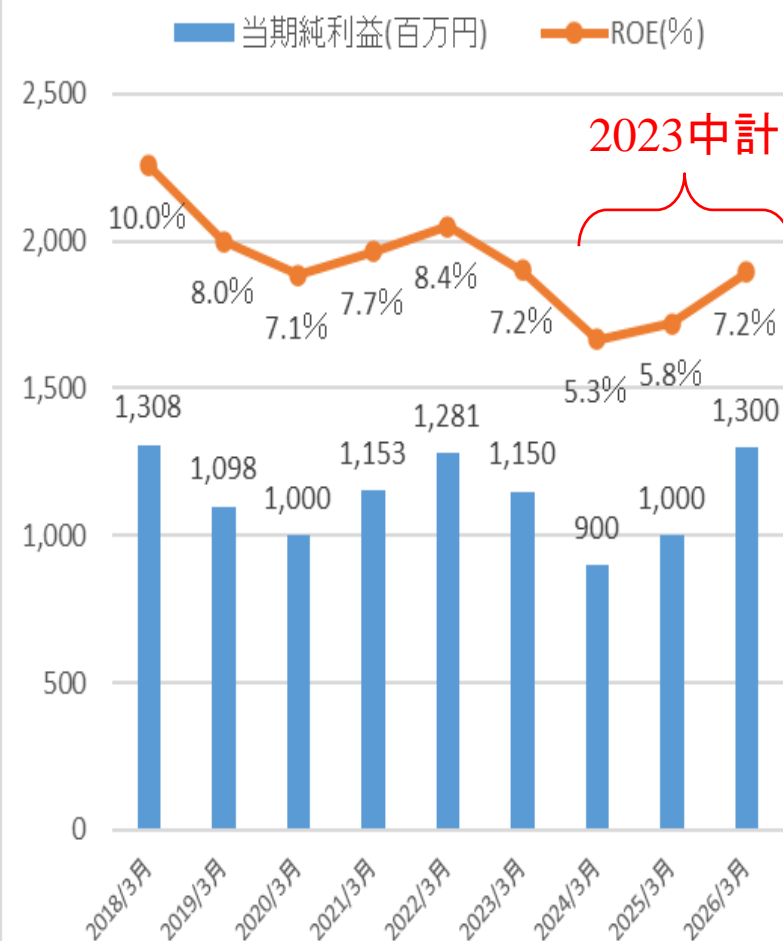


4. 財務戦略

(3) 配当金/配当性向



(4) 当期純利益/自己資本当期純利益(ROE)



3ヶ年投資計画

24億円の積極投資を計画

(単位：億円)

項目	2023年度	2024年度	2025年度	合計
研究開発	5.0	6.5	4.5	16.0
生産設備	1.0	0.5	0.5	2.0
SDGs（基盤整備）	1.0	1.0	1.0	3.0
人材投資	1.0	1.0	1.0	3.0
合計	8.0	9.0	7.0	24.0

株主還元方針

当社は、株主の皆様への利益還元を重要施策の一つと位置づけし、経営環境、業績に裏付けられた成果の配分と、内部留保の決定を行うことを、基本方針としています。

これまで、安定配当を維持するとともに、配当性向30%~40%を目安に実施して参りました。今後、中長期的には、配当性向30%~40%の目安に加え、総還元性向50%を実現することを目指してまいります。

● 2023中計人材戦略重点課題

<戦略課題>

経営理念及び23中計実現に向け「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成

方 策	目 標 値
①経営幹部層等 リーダー職の計画的育成	①取締役会での討議継続
②現場力強化の人材育成 ・各職場でOJTの仕組み強化	②人材育成 ・本部長が研修プログラム作成 ・目標チャレンジシートの確実な展開 →評価へ直接結びつける（例：改善提案） ・各本部毎に社外研修を予算化して派遣 （年1回以上/1人を目標とする） 例）管理者研修、生産管理研修、技術者研修

2023中計人材戦略重点課題

＜戦略課題＞

経営理念及び23中計実現に向け「成長と自立」を目指す「能動的人材」の育成

方 策	目 標 値
③「人的資本」を重視する経営・方策	③各人の「スキルアップ」や「自己の成長を意識させる」具体策の案画
④各部門のスペシャリスト育成 ・人材育成ローテーションの計画的実施 (各部門ニーズ把握、異動希望・面談、ローテ計画の立案・実施)	④ローテーション実施 ・毎年4月実施（事前に本部長が案を作成する）
⑤能力開発目標の明確化 ⇒ジョブ型雇用制度の検討	⑤各人の目標チャレンジシートへの明確化 ・社員が納得できるキャリア開発機会の提供 ・ジョブ型雇用への転換検討

● 2023中計人材戦略重点課題

＜戦略課題＞ コンプライアンス（法令遵守）の徹底

方 策	目 標 値
法令及び社会的規範の遵守 ・内部統制体制の強化 （法改正への迅速な対応等）	・社内規程の見直し⇒1回/年
・法令遵守教育の強化 （eラーニング、研修の内容充実）	・eラーニング⇒4回/年
・罰則の厳格運用 （重大過失・トラブルへの処分対応）	・都度審査（経営管理本部）
・サイバー攻撃への対応策	・情報管理室で検討 ・DX（デジタルトランスフォーメーション）の検討 ・IT教育の充実

・重点課題 中計3ヶ年計数計画（308億円）の達成

- ①『予約採血コントロール・オプションとクラウド採血待合システム』等、システムに特化した商品の提案。
- ②『採血受付システムと小型採血管準備装置』にて健診センターへの販路構築を目指す。
国内RFID市場の更なる開拓で消耗品ビジネスに寄与する。
- ③人材育成『成果を出す営業社員を輩出し変化と時代に対応した提案営業が出来る』社会価値と経済価値観を持った人材育成を目指す。

経営数字の達成（売上35.5億円）（装置+消耗品+台湾）

エリア担当の強化（営業 5名+技術サービス2名体制）

中国 販路再構築（アプリ別販路、省別施策など）

新製品（GASTAT-pro）による市場深耕（特に、アジア地区）

製品情報・販売戦略の共有(@代理店開拓)

各国主要病院への同行訪問と製品紹介

新エリア拡大（各欧州国(仏、英、独、etc.)、米、アフリカ）

先進国での販路構築

日本政府の施策を活用した販路構築

部署スキルアップ（新人立上げ、多能工化など）

教育・OJTによる新配属者の立上げ

総合スキル（市場/製品知識・技能・語学など）向上による業務効率化

重点課題

品質目標の達成

品質方針（抜粋）

医療機器メーカーとしての自覚と責任を持ち、信頼性、品質を確保する。

部門品質目標

- ①製造～保守の組織的連携による市場品質問題の迅速な解決
- ②法令・規定・定められた手順の遵守を堅持
- ③一人ひとりが製品実現に必要なスキルを常に学び、人的資本価値を高める。

重点課題

部門品質目標

① 製造・保守の組織的連携による市場品質問題の 迅速な解決

⇒生産部門とフィールドサービス部門の統合による、太く密な情報
連携で問題解決スピードを加速

② 法令・規定・定められた手順の遵守を堅持

⇒明文化された規範に則った作業ができる風土作り

③ 一人ひとりが製品実現に必要なスキルを常に学び、 人的資本価値を高める

⇒エンジニアスキルの研鑽、プロフェッショナルマインドの醸成

重点課題

1. 2030長期ビジョン実現に向けた開発計画と体制作り
 - ・既存・新規開発のバランスの取れた両利きの組織構築の実現
2. 各部戦略
 - ・設計部：製品サイクルを意識した上市計画を実行しステークホルダーも包含し品質活動を実施する
 - ・医療ソリューション開発部：採血管準備装置・システムの市場を牽引する製品を開発し、事業の持続可能性を高める
 - ・方式開発部は、学術活動で販売・顧客意識を高め、社会変化に対応した新センサーを開発し新たな市場開拓を行う
 - ・技術・顧客・開発人材のマインド向上させるための教育計画を実行する

2030

- <2030年 医療を持続可能に>
- ・医療と共に、人財と組織の成長へ
 - ・医療課題の解決に寄り添った製品開発へ

6 安全な水とトイレ
を世界中に

医療を患者それぞれに、より身近で持続可能なものに
・医療課題からライフサイエンスまで貢献する製品を創造する

9 産業と技術革新の
基盤をつくらう

ロボット技術応用で検体検査の発展に貢献する
・慢性的な人手不足の解消や新しい医療安全を医療現場へ

3 すべての人に
健康と福祉を

測定性能・供給安定性重視の分析装置と新センサー開発
・先の見えない時代だからこそ本質を追求します。
・国内メーカーの強みである安定サプライチェーン構築

12 つくる責任
つかう責任

変化する医療環境に、変化する次世代採血管準備システムへ
・質の高い医療安全と効率の両立化を目指します
・採血管準備から検体移動把握・履歴管理へと領域拡大

<注意事項>

当資料に記載された内容は、現時点において一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的に判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。投資に際しての最終的なご判断は、ご自身がなされるよう、お願い致します。